

私立大学研究ブランディング事業 成果報告書

学校法人番号	131051	学校法人名	津田塾大学		
大学名	津田塾大学				
事業名	「変革を担う女性」の持続的育成を目指した「インクルーシブ・リーダーシップ研究」拠点の形成				
申請タイプ	タイプB	支援期間	3年	収容定員	2760人
参画組織	学芸学部、総合政策学部、文学研究科、国際関係学研究科、総合政策研究所、津田梅子資料室、インクルーシブ教育支援室、国際センター				
事業概要	<p>激動する現代社会では女性の活躍が様々な場面で期待されている。本事業ではそうした状況で求められる国内外の「変革を担う女性」を、持続的に育成することを目指した「インクルーシブ・リーダーシップおよびダイバーシティ研究」のグローバルな拠点を形成する。創立1900年以来、自立して社会に貢献できる女性を輩出してきた歴史に新しい光をあて、未踏の道を切り拓く女性リーダー像としての津田ブランドを社会に発信していく。</p>				
事業目的	<p>今日の社会情勢と本学の長年の歴史に新しい光をあて、本事業では、国内外の「変革を担う女性」を、持続的に育成することを目指した「インクルーシブ・リーダーシップおよびダイバーシティ研究」のグローバルな拠点を形成する。社会の様々な分野で課題を解決し、リーダーシップを発揮して活躍し続けていく、未踏の道を切り拓く女性リーダー像を、現代の津田塾大学のブランド、すなわち「津田ブランド」として位置付ける。このブランディングの方向性のもとで、本学は、主に次の4つのテーマに取り組むプロジェクトを設け、諸活動を推進していく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国際的女性リーダーシップ英語教育の方法論開発 2. データ活用型政策研究と実践的教育プログラム開発 3. 社会的インクルージョン研究基盤形成 4. 津田アーカイブを用いた多様で先進的な女性ロールモデル研究推進 <p>これら4つのプロジェクトの活動と成果を通じて、「津田ブランド」のイメージを学内外にアピールし、これまで以上に強力なものとすることが本事業の目的である。さらに、上記のプロジェクトに関連し、新たに5つのプロジェクトを加え合計9つのプロジェクトで、より充実した取組に向けて活発化している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. グローバルな計算社会科学的視点による社会科学と情報学の融合教育・研究プログラムの開発 6. 東京都議会議員の政治的態度と多様性の分析を通じた実践的教育 7. 主体的学びを支える情報のアクセシビリティを考える—マイノリティのリテラシーの実証研究 8. インクルージョンにおける AI(人工知能)の活用可能性 9. 「クロスオーバー・若手リーダーシップ育成事業」 				

私立大学研究ブランディング事業 成果報告書

学校法人番号	131051	学校法人名	津田塾大学																										
大学名	津田塾大学																												
事業名	「変革を担う女性」の持続的育成を目指した「インクルーシブ・リーダーシップ研究」拠点の形成																												
事業成果	<p>本事業では、創立以来の実績と昨今の社会の動きに新しい光をあて、国内外の「変革を担う女性」を、持続的に育成することを目指した「インクルーシブ・リーダーシップおよびダイバーシティ研究」のグローバルな拠点の形成を図った。その上で、社会の様々な分野で課題を解決し、リーダーシップを発揮して活躍し続けていく「未踏の道を切り拓く女性リーダー像」を、現代の津田塾大学のブランドとして位置付け、この方向性のもとで諸活動を展開してきた。</p> <p>本事業の運営のための組織として、「ダイバーシティセンター・フォー・インクルーシブリーダーシップ」(The Diversity Center for Inclusive Leadership)を設置し、前述の9つのプロジェクトを推進した。その結果、下表のとおり研究業績・活動実績を積み上げることができた。</p> <p style="text-align: center;">表 本事業関係業績・実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>論文及び その他 活字業績</th> <th>口頭発表</th> <th>その他発表</th> <th>その他活動 (地域連携活動 ・受賞等)</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2018</td> <td>45</td> <td>45</td> <td>25</td> <td>27</td> <td>142</td> </tr> <tr> <td>2019</td> <td>66</td> <td>56</td> <td>29</td> <td>19</td> <td>170</td> </tr> <tr> <td>2020</td> <td>86</td> <td>53</td> <td>31</td> <td>11</td> <td>181</td> </tr> </tbody> </table> <p>上記の詳細は右記に記載している。(https://dcfil.tsuda.ac.jp/topics/20210513.html)</p> <p>主な事業成果を抜粋すると次のとおりであり、研究成果の発信の場及びブランディング活動の実践として、有効な取り組みがあったといえる。</p> <p>①本事業をテーマにした大規模なシンポジウムを2019年9月28日(土)に千駄ヶ谷キャンパスにて開催。大学関係者のみならず、高校生、地域の住民や社会人等一般の参加者があり、テーマへの関心の高さがうかがえた。述べ120名の来場者があった。様々なステークホルダーに、アプローチできる場となった。(https://dcfil.tsuda.ac.jp/topics/0928.html)</p> <p>②「インクルーシブ・リーダーシップ人材の輩出を見据えた研究の現在と今後」と題したオンライン公開研究会を2020年9月4日(金)に開催。多様な研究分野におよぶ8つの各プロジェクトの進捗を共有し、本学関係者のみならず、他機関の研究者、企業の方、高校生の方等の参加があった(本研究会では、これからの時代・変革期の社会に求められる「インクルーシブ・リーダーシップ」のあり方に着眼し、多様性を生かす社会を実現するために解決すべきことは何か、それを担う人材をどのように育てるかということに対するアプローチの多様性や新たな視点を見出すことを趣旨とした。 (https://dcfil.tsuda.ac.jp/topics/20210226.html)</p> <p>③2020年11月5日(木)には、本学の卒業生でもあり、男女雇用機会均等法の成立に尽力した赤松良子氏を招き、「未来の女性たちに託したい思い」と題した講演会をオンラインで開催。オンラインで配信され、在学生や教職員をはじめ、一般の方々や国内外の卒業生からも参加があり、約500名規模の講演会となった。様々なステークホルダーに対して、本学の掲げる「変革を担う女性」の持続的育成を目指した「インクルーシブ・リーダーシップ研究」拠点の形成」をアピールする場となった。(https://dcfil.tsuda.ac.jp/topics/20210305.html)</p> <p>④各プロジェクトが、各々のテーマに沿って活動を前進させ、研究成果の発信など有効な取り組みがあった。一例として、「社会的インクルージョン研究基盤形成:ロールモデルのための合理的配慮」が、コロナ禍におけるこどもたちへの学習支援のために、「学びの危機(まなキキ)Counter Learning Crisis Project」を立ち上げ、その活発な活動内容が多数メディアで取り上げられたことが挙げられる。 (https://dcfil.tsuda.ac.jp/topics/0513.html)</p>					年度	論文及び その他 活字業績	口頭発表	その他発表	その他活動 (地域連携活動 ・受賞等)	合計	2018	45	45	25	27	142	2019	66	56	29	19	170	2020	86	53	31	11	181
年度	論文及び その他 活字業績	口頭発表	その他発表	その他活動 (地域連携活動 ・受賞等)	合計																								
2018	45	45	25	27	142																								
2019	66	56	29	19	170																								
2020	86	53	31	11	181																								

	<p>⑤「データ活用型政策研究と実践的教育プログラム開発」では、本学の教員と学生によって、各省庁が毎年公表する白書図表を横断的に検索できるデータベースの構築・公開。図表コンテンツは3万件以上におよび、図表の年次や出典統計名などもデータベース化している。また、公表されているバックデータへのアクセスも可能とした。また、データの変遷を追える点から、教育・研究のみならず企業活動等にも付加価値のあるデータベースを実現させた。 (https://dcfil.tsuda.ac.jp/topics/0529.html)</p> <p>⑥「津田アーカイブを用いた多様で先進的な女性ロールモデル研究」プロジェクトでは、各界で先駆的な業績を残してきた卒業生や本学関係者にインタビューを行い、そのオーラルヒストリーをデータベースとして蓄積することを目的として活動した。さらに、既存のデジタルアーカイブシステムよりも、動画等より充実したコンテンツを提供できるよう新たなシステム“IMAGEWORKS”を導入・公開した。史資料をより簡便にアクセスできるようになり、順調な運用が行われた。 (https://dcfil.tsuda.ac.jp/topics/1110.html)</p> <p>⑦同じく私立大学研究ブランディング事業に選定された立命館アジア太平洋大学とは、大学との会議(国際会議「第18回 アジア太平洋カンファレンス」:2020年11月14日開催)や研究会(Diversity and Inclusion in Japan研究会:2021年1月9日)に本学の研究者が登壇・参加し、本学の取り組みを発信・情報交換した。同大学との共同執筆による書籍(仮題「Diversity & Inclusion in Japan」、海外の有力学術出版社より出版に向けて調整中)の刊行を今後予定している。 (https://www.tsuda.ac.jp/student-life/campusreport/2019/200108_3.html) (https://dcfil.tsuda.ac.jp/topics/1222.html)</p>
<p>今後の事業成果の活用・展開</p>	<p>本学は、建学の精神を踏まえ、2017年6月に、創立130周年までの行動指針を示すため「Tsuda Vision 2030」を策定した。この中で大学のビジョンを「『変革を担う、女性』の『生涯にわたる持続的研鑽』を支える」と掲げた。本事業で定めた「『変革を担う女性』の持続的育成」という事業目的も、「Tsuda Vision 2030」の中でも最も重要なものとして位置付けている。</p> <p>この事業は、グローバル化、インクルーシブ、データ活用型社会を生き抜く人材を育成するために、「女性リーダーの育成プログラム」の開発や、人生100年時代の未来にふさわしい「女性活躍・女性の社会貢献のモデルの提示」を目的としている。この目的を達成するために、事業期間中は、各研究プロジェクトの活動を基盤にして、前に述べたシンポジウム・研究会・講演会等を開催し、研究成果を発信し、ブランディング活動を実践してきた。また、毎年度終了後に内部評価・外部評価を受けて事業活動の見直しの機会も設けた。内部評価・外部評価の委員からは、今後も本事業を継続して展開していくことへの期待が示されている。こうしたことを踏まえ、今後は次の展開を予定している。</p> <p>1.事業期間の延長 文部科学省による私立大学研究ブランディング事業の支援期間(補助事業期間)は、当初の5年間から、2018～2020年度の3年間に変更された。これを受け本学は、本事業の本格的な活動期間を2019～2021年度の3年間とした。2021年度は活動のまとめの年度であり、引き続き本事業を継続していく。</p> <p>2.後継事業の検討 2021年2月からは本事業を推進している教員を核とした、新たな研究グループを立ち上げ、研究会の開催を重ねている。今後も本事業の業績と実績を基盤としながら、学術的に社会に貢献できる研究拠点の充実に向けて努力していきたい。</p>